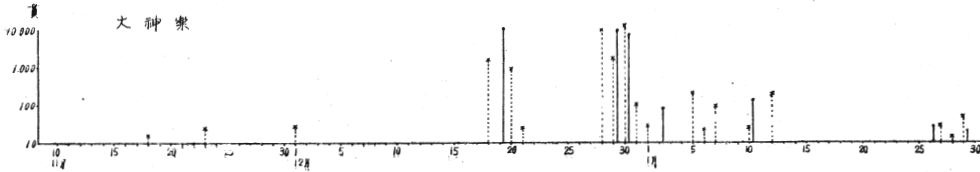
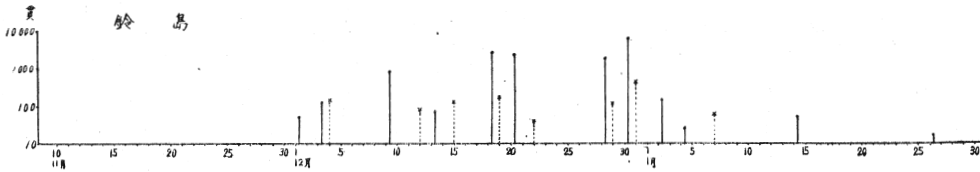
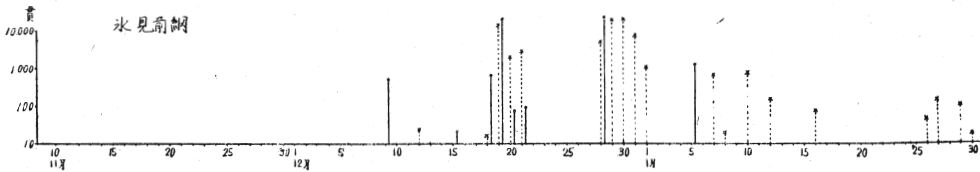
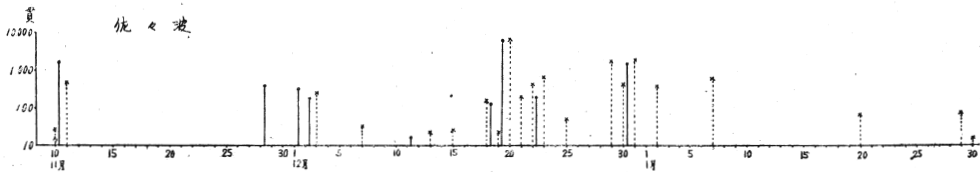
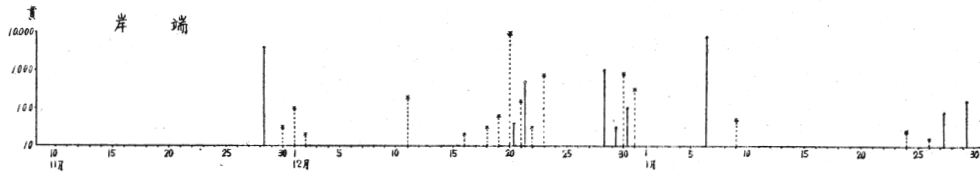
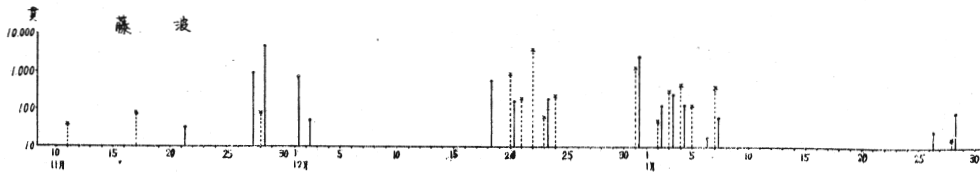
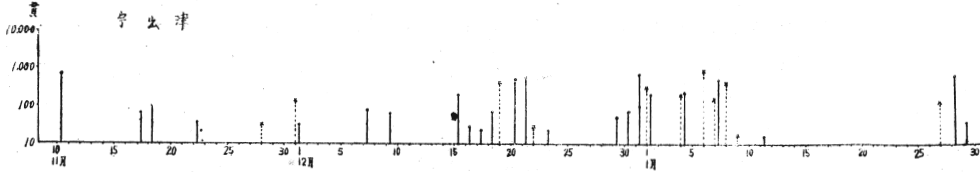


12月28日—1月4日

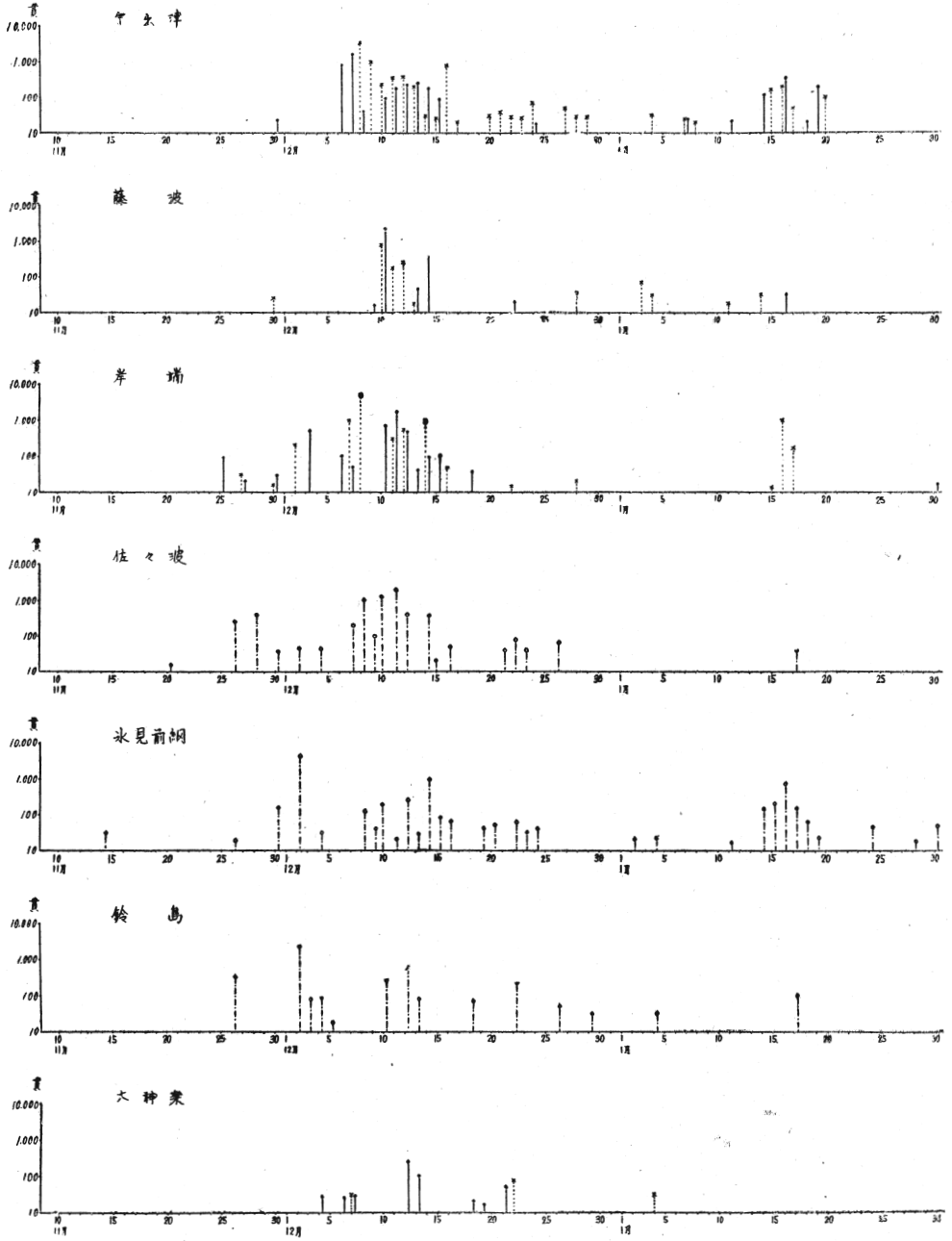
1月5日—1月8日

1月27日—1月30日

1951年度



1952年度



第2図 ブリ漁期間における各漁場の日々漁獲高

- x 朝 網
- —— 夕 網
- - - - - 朝網と夕網

1952年度

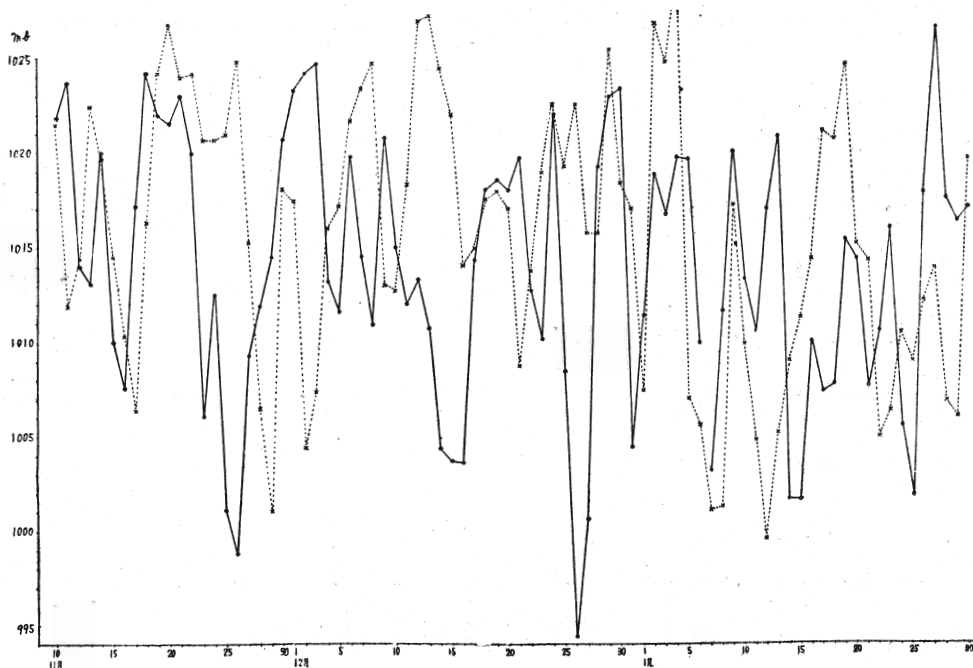
12月2日—12月4日

12月6日—12月14日

1月14日—1月17日

即ち1951年度の富山湾冬ブリ漁況には5つの漁獲の山が見られるが、11月10日、12月10日前後にも部分的な入網が認められる。今最初の山を第1群とし以下順を追うて第2、第3、第4、第5群とすると、第1群の場合は主としてⅡ、Ⅲ地区に入網し、Ⅰ地区の鈴島、大神楽漁場等には12月に入ってから僅に入網したに過ぎない。第2群、第3群は全群を通じて最も漁獲が多く、漁獲期間もⅠ地区よりⅢ地区へ行くに従つて順次おこなわれている傾向が見られる。第4群は、第2、第3群にくらべると漁獲はやや劣るが、第5群は更に減少してこの年の漁期は終つている。一方1952年度には3つの大きな漁獲の山が見られるがその他にも12月20日から23日頃にかけて小さな山が認められる。第1群の入網量とその地区は前年と反対にⅠ地区に多く、Ⅱ、Ⅲ地区に少なかった。第2群は3群中最も漁獲が多く比較的Ⅰ地区よりⅡ、Ⅲ地区がよかつた。第3群になると漁獲も減少し、終漁の徴候を示している。以上を総合してみると1951年度の第1群はⅡ、Ⅲ地区に主として入網し、第2、第3、第4群が漁獲の主体をなして第5群で終漁となつているが、52年度では第1群は前年度と反対にⅠ地区に主として入網し、第2群が主体となり、第3群で終漁となつている。そして51年度の第2、第3、第4群に於てはⅠ地区とⅢ地区との間にかなり明瞭な漁獲期間のズレがみられる。

漁況と低気圧並に海況との関係



第3図 1951年度、52年度のブリ漁期間における最低気圧示度（輪島）

—線 1951年度
線 1952年度

第1表 1951年度、52年度の各群における低気圧の通過状況と海況の変化

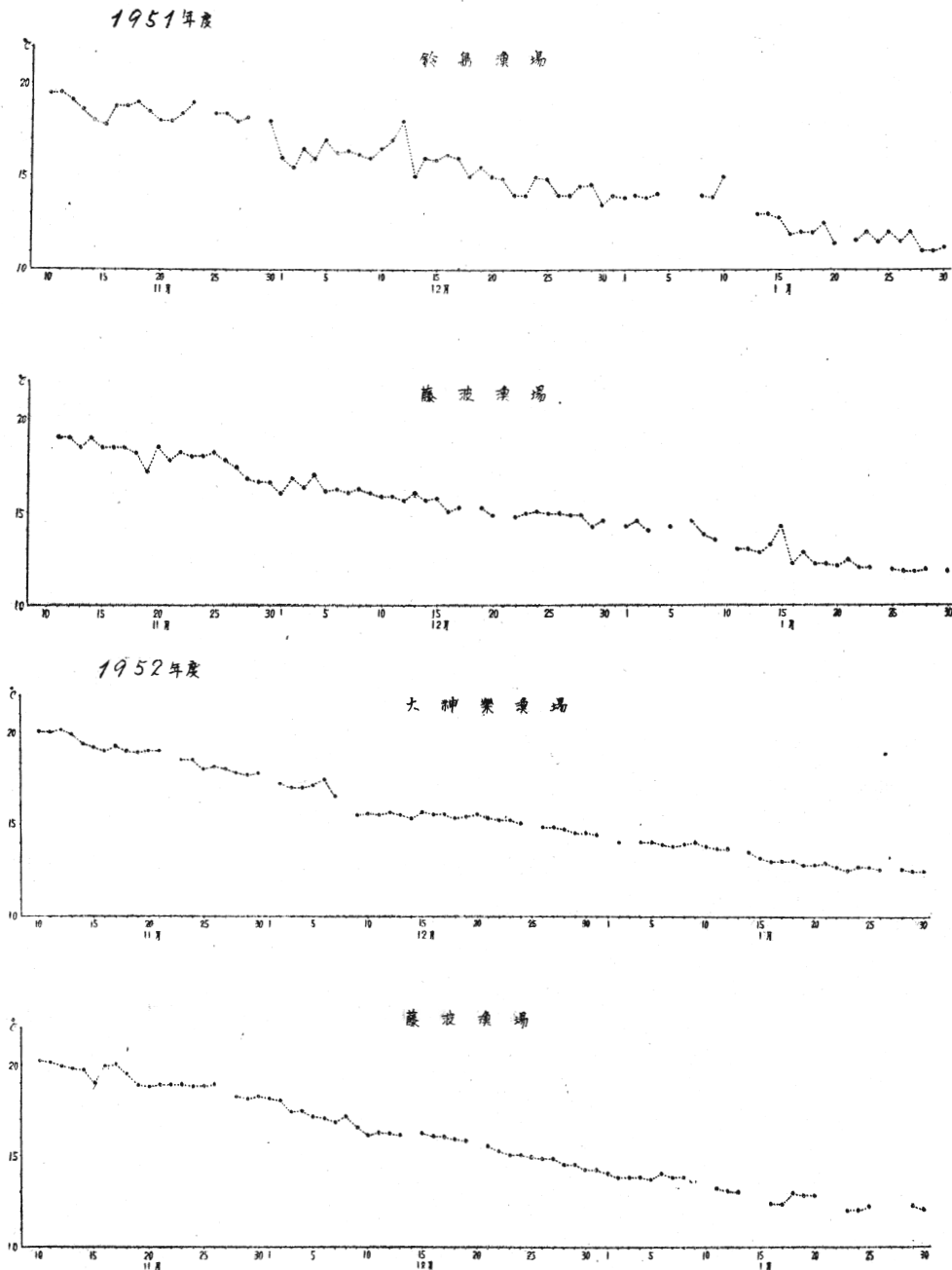
1951年度

漁獲期間	低気圧並に不連続線の能登半島附近を通過する状況	輪島に於ける最低度	漁場	漁獲期間の表面水温	水温急降期間	水温急降度	備考
月日 月日 11.28.—12. 3. (第1群)	11月26日に低気圧通過す	998.8mb.	鈴島 藤波	15.5°C—18.0°C 16.0°C—17.4°C	月日 月日 11.30.—12. 1. 11.25.—11.29.	2.0°C 1.7°C	29日欠測
12.18.—12.24. (第2群)	12月14日から16日にかけて数本の不連続線通過す	1003.6	鈴島 藤波	14.4°C—15.6°C 14.8°C—15.2°C	12.17.—12.18. 12.15.—12.16.	1.0°C 0.6°C	12月12日から13日にかけて3°Cの水溫急降あり 18日欠測
12.28.— 1. 4. (第3群)	12月26日に低気圧通過す	994.4	鈴島 藤波	14.0°C—14.5°C 14.0°C—14.8°C	12.25.—12.26. 12.29.—12.30. 12.28.—12.29. 1. 2.— 1. 3.	0.8°C 1.0°C 0.6°C 0.5°C	31日欠測
1. 5.— 1. 8. (第4群)	1月7日午前中に低気圧通過す	1003.1	鈴島 藤波	14.0°C 13.7°C—14.5°C	1. 7.— 1. 8.	0.8°C	5日, 6日, 7日欠測 6日欠測
1.27.— 1.30. (第5群)	1月25日に不連続線通過す	1001.8	鈴島 藤波	11.0°C—11.9°C 11.1°C—11.9°C	1.27.— 1.28.	0.9°C	29日欠測

1952年度

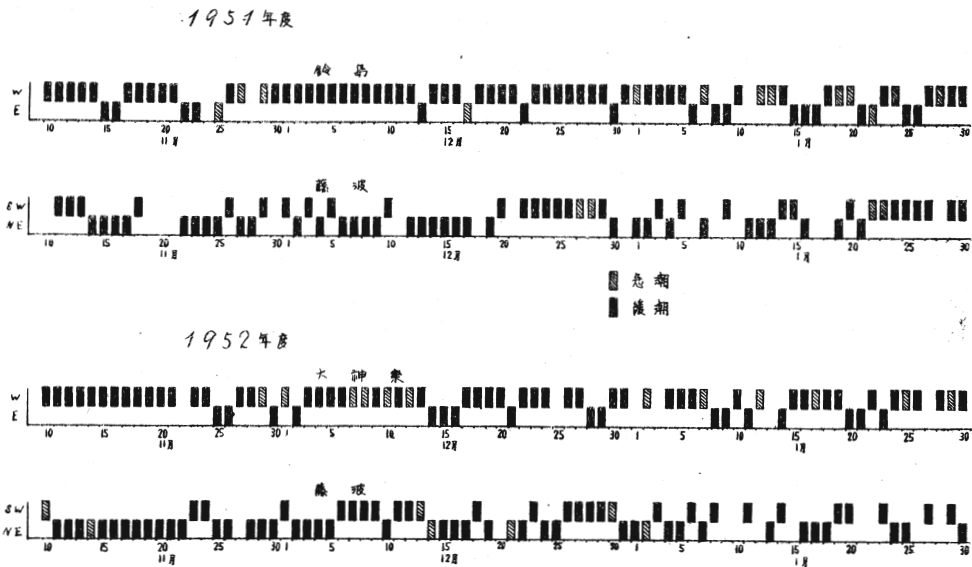
漁獲期間	低気圧並に不連続線の能登半島附近を通過する状況	輪島に於ける最低度	漁場	漁獲期間の表面水温	水温急降期間	水温急降度	備考
月日 月日 12. 2.—12. 4. (第1群)	若狭湾に低気圧発生急激に発達して12月2日に通過す	1004mb.	大神楽 藤波	17.0°C—17.2°C 17.4°C—18.0°C	月日 月日 11.30.—12. 2. 12. 2.—12. 3.	0.8°C 0.6°C	12月1日欠測
12. 6.—12.14. (第2群)	12月6日に能登沖を不連続線通過し低気圧発生	1017.2	大神楽 藤波	15.2°C—17.4°C 16.1°C—17.1°C	12. 6.—12. 9. 12. 8.—12.10.	1.9°C 1.0°C	12月8日欠測
1.14.— 1.17. (第3群)	1月12日低気圧通過す	999.6	大神楽 藤波	12.9°C—13.5°C 12.5°C	12.14.—12.16.	0.6°C	13日より急降の傾向にあるが14日, 15日欠測で不明

ブリ海況と気象との関係について宇田は長崎県五島列島西村漁場において、ブリ漁況は低気圧が通過する1日半前及び2日後に漁獲の山が、半日後に谷が現れると報じ、木村は相模湾のブリ漁況と海況について冬ブリ漁況と海況について冬ブリは水温 14°C から 16°C の時に漁獲が多く、 13°C 以下では殆んど漁獲されないと述べ、ブリ漁況は沖合水によつてもたらされる冬期及び春期の大急潮に大いに影響されることを発表している。更に佐々木は富山湾の冬ブリは北西風が連吹し、寒威酷烈な



第4図 ブリ漁期間における水温変化 (1951年度, 1952年度)

時に漁獲がある事を述べている。今1951年度と52年度のブリ漁期間に輪島測候所で観測した両年の最低気圧を第3図、51年度の鈴島、藤波、52年度の*大神楽、藤波両漁場の表面水温を第4図、潮流を第5図に示した。これによつて両年の漁獲の山と能登半島附近の低気圧通過状況、ならびに漁場の水温との関係を取りまとめると第1表の如くである。即ち1951年度においては第4群は低気圧の通過前に漁獲があつたが他は全群とも低気圧が不連続線が能登半島附近を通過後2日目に主な入網が見られ、52年度も漁獲の始つた日か或はその2日前に低気圧の通過が必ず認められる。即ち両年とも漁獲の各山と低気圧あるいは不連続線の通過との間には密接な関係がみられ、漁獲は低気圧の通過後2日目に多くあつて大体宇田の説と一致する。一方海況方面からみると両年とも大体表面水温13°C以上18°C迄に主な漁獲があり、とくに14°Cから16.5°Cの範囲に好漁がみられる。そして13°C以下又は18°C以上になると大きな漁獲は見られずこの現象は1951年度に於ける第5群の僅かな入網、又両年とも第1群が18°C以下の場合にまとまつた漁獲があつた事等に顕著に現れている。更に低気圧の通過する前後から漁獲期のはじめにかけて両年とも水温の急降が認められ、その場合水温の急降は1日だけで終る場合もあるが、2,3日続く時もある。この様な現象は低気圧あるいは不連続線の通過により湾内に冷水の性質をおびた流動が起り、その結果表面水温が急降するものと思われる。更に第5図の潮流と各群との関係をみると、1951年度の鈴島漁場は各群ともほとんど西向流を示しているが、藤波漁場では第1、第2、第3群が北東流、第5群が南西流を示し、第4群は流向がまちまちである。52年度では大神楽漁場は前年度の鈴島漁場と同様各群とも殆んど西向流を示しているが、藤波漁場では第1、第3群は大体北東流、第2群は南西流を示している。この結果湾内を時



第5図 ブリ漁期間における潮流の変化 (1951年度, 1952年度)

計廻りに流れる潮流の時に漁獲のある場合が多いとすることができ、I地区の鈴島、大神楽漁場ではこの現象が明瞭に現われている。

以上の結果を総合して考えると富山湾のブリ群は表面水温が13°Cから18°Cまでの範囲で、低

* 1950年度は鈴島漁場から水温の報告がなかつたので前年度欠測しているが、隣接している大神楽漁場の資料を使用す

気圧あるいは不連続線が通過して水温の急降が認められ、湾内を潮流が概して時計廻りに流れる時に漁獲があるように考えられる。即ち湾内に生ずる冷水の性質をおびた流動が、沿岸暖流を圧迫する影響如何によつて富山湾のブリ漁況は左右される様子が大体木村の説と一致する。しかして1952年度の漁況が香しくなかつたのは水温 14°C から 16.5°C の盛漁期間において12月6日にただ1回弱い不連続線が認められるのみで、その後、前年度のごとき優勢な低気圧の通過がなく、したがつて水温の急降も認められず、冷水による沿岸暖流の圧迫がなかつたことに原因していると思われる。又1951年度の第1群がⅡ、Ⅲ地区に主な漁獲があり、52年度の第1群がⅠ地区に主な入網が見られたのも51年度においては11月28日ごろⅠ地区は 18°C 以上を示し、52年度ではⅢ地区が12月2日迄 18°C 以上を示し、ともに水温がやや高く、冷水の冷影が弱かつたためと考えられる。

摘 要

1951年度と52年度の富山湾における冬ブリ日々漁獲高をとりまとめ、その漁況と気象、海況との関係を明らかにし、52年度の不漁の1原因について考察を加えた。

1 1951年度の富山湾冬ブリ漁況には5回漁獲の山が見られ、52年度では3回認められる。しかして51年度の第1群は石川県方面に主として漁獲があつたが、52年度は富山県側で大部分の漁獲を占め、石川県側は少なかつた。

2 富山湾のブリ群は水温 13°C から 18°C までの範囲で、低気圧あるいは不連続線が能登半島附近を通過後大体2日目までにまとまつた漁獲がみられ、その漁況は湾内に生じる冷水の性質をおびた流動が沿岸暖流を圧迫する影響如何によつて左右される。

3 1952年度の不漁の1原因は水温 14°C から 16.5°C の盛漁期のはじめに、ただ1回弱い不連続線が能登半島附近を通過したのみで前年度のごとき強い低気圧の通過が見られず、したがつて湾内に冷水の性質をおびた流動が起らず、沿岸暖流が岸近く圧迫されなかつたためと思われる。

文 献

- 1) 宇田道隆 ('28) 漁業と気象の関係について1考察。定置漁業会 No. 3
- 2) 木村喜之助 ('40) 相模湾の海況とブリ漁況。水産試験場報告 No. 10
- 3) 佐々木三治 ('35) 富山湾に於ける鰺及鰺漁業について。日本定置網漁業研究会 鰺の研究